

「家がいいね」 第29号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2006.10.10

わたしは今日まで生きてみました
時にはだれかの力をかりて
時にはだれかにしがみついて
わたしは今日まで生きてみました
そして今 わたしは思っています
明日からも



こうして生きて行くだろうと

♪「今日までそして明日から」

吉田拓郎 作詞作曲

同じ歌を30数年を超えて聴き直して、自然に自分でも歌えることに気付きました。何度も同じ事を繰り返してきたとしても、1年前や昨日の「自分」と同じ「自分」は居ないようにも思います。しかし、確かに何か繋がっている、明日だけでもこう思い続けていい、**そんな風な私です**。♪。

作家でないと思えるのかな、日本の姿

10月から、高齢者の現役並み所得の方では、自己負担金がアツと言う間に、1↓2↓3割と増えました。その怒りは徴収する現場でお互いに感じる事になります。(負担割合が変わっただけで、医療機関が得る報酬は全く同じなのですが)厚生官僚のずるさをこのテクニクで痛感します。

でも巨悪は見逃されるのです。バブルの後で、金融機関の救済に何千億円という税金が投入されました。誰も本気で怒りませんでした。その金額の実感を、「例えば医療費に回せばこれだけの事が出来る」と書いた作家がいました。



その作家は、未来をがんじがらめにされている子供のために、「今どんなことを思っても、必ずこんな仕事に結びつく」と、詳細な職業紹介の本も作りました、その本に続き、資料を駆使して書いたフィクションには、近未来の日本の混乱が映し出されており、私には現実感が強く、怖い思いで読みました。

小説の筋は、北朝鮮「反乱軍」と自称する9名の兵が福岡ドームを占拠する事に始まる。しかし、政府・メディアともども、事態への基本的な態度をあいまいにしたまま、問題を先送りして、自ら福岡市そして九州全体を封鎖し、後続部隊の到着と占領への追認をしてゆく事になる。



誰もが、苦しい不可欠の選択と決断を行うことを避け、現実から目をそらすための沢山の理屈を考え続ける。そのうち、TV報道やブームのように問題自体が消えてくれと願う。そんな所が一番の日本の現実問題だと指摘されているようです。目の前のことに真剣に取り組む。その決断の積み重ねなしに、何事も成せないように思います。

寝ることは、半分死ぬこと

「せん妄」や「重症うつ」など、混乱を極める病態の時は、睡眠の障害があるものです。で気が付いたのは、薬の目的の第一は、「寝る事を可能にして、まずは落ち着いてもらうこと」なのです。そう言えばガンの除痛も、まず睡眠が確保できるレベルを目標にします。次に、がまんしなくても良い昼間の活動レベルを保障してゆきます。思えば、睡眠は複雑な要素が絡みあって、達成されています。起きていようと頑張る事は出来ても、寝ようと頑張ると逆効果です。これは頭だけ知っていても、身体は実現不可なようです。寝るまでのお膳立ても、随分あいまいな環境が必要なのかも知れません。患者さんが退院して嬉しいのは「この眠れる環境」が、我が家では自然に戻るせいだろうと思うのです。冗談に「寝る事は半分死ぬ事」と言いますが、この半分死ぬ時間を積み重ねて、人間は日常を生きているわけですね。



いせ在宅医療クリニック
自宅での人生を 最期まで支援します
〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>